

令和4年度鹿児島県がん対策推進協議会議事概要

〔主な意見〕

(1) 報告事項 ①本県におけるがんの現状について

委員： データを次の対策に活かすため、二次医療圏ごとの男女別のデータなど、より詳しいデータを報告してほしい。

がん患者に対する調査の結果等、「生活の質」に関わるデータについてもまとめてほしい。

委員： 子宮がんの死亡率等が全国に比べ鹿児島県は高いが、子宮頸がんワクチン接種率との関連性について解析し、改善の余地があれば、指導してほしい。

委員： 子宮がんの罹患率が高くなっている曾於、肝属保健医療圏の40代、50代へ向けて、がん検診の普及をしていくことが大切と考えられる。

報告事項 ②鹿児島県がん対策推進計画の進捗状況について

委員： 進捗状況の評価だけでなく、アクションプランを検討し、実行もお願いしたい。

指標の設定や評価の方法については、ロジックモデルを活用して評価する等の仕組み作りをしてほしい。

委員： 患者の多くは、地元のかかりつけに戻って治療を行うことが多いため、地域のがん対策が大切であり、拠点病院や指定病院だけでなく地方の病院との連携も含めて考えてほしい。

委員： 治癒に向けた医療の部分とACPがとても大事であると言われてきており、その部分を何らかの形で取り組み指標に設定できればと思う。

委員： 若年末期がん患者に対する療養支援事業については、とても良い事業だが、まだ実施していない市町村があるので、継続して実施及び普及してほしい。

(2) 協議事項 次期鹿児島県がん対策推進計画の策定について

委員： 精密検査が検診時判定のカテゴリーに正しく対応するよう、精査検査内容の統一をお願いしたい。

委員： がんが見つかった時、進行した時、在宅で看取りになる時にも、地域のかかりつけ医が対応することがあるので、拠点病院以外の一般の医師に対する教育も計画に入れてほしい。

委員： 県ホームページに様々な情報を載せていただいているが、県のホームページを見て知ったという方は少ないため、一般の方が見やすいサイトを立ち上げることも、次期計画にて考慮してほしい。

委員： がん患者等状況等調査の調査項目と国の患者体験調査（H30）の項目を見比べたとき、ゲノムや臨床試験、がん患者へのスティグマ（偏見）などが漏れているため、国の調査票と近い形に項目を揃えてほしい。

令和4年度鹿児島県がん対策推進協議会議事概要

委員： がん患者等状況等調査の調査対象は、拠点病院、指定病院、患者会となっているが、患者会のほとんどは鹿児島市に所在しており、離島や地域の患者の声が吸い上げにくくなっているため、地域の患者の声を聞けるような仕組みができればと思う。

委員： がん患者等状況等調査の患者・家族への調査項目に、ACPに係る項目も追加してほしい。

(3) その他

添付資料1

がん教育「いのちの授業」2022年授業実施校一覧（NPO法人がんサポートかごしま）

委員： がん教育が中学校・高校の教科書に掲載されるようになって、大分進んできているが、外部講師の活用が進まないことや、外部講師が増えない等の課題があり、そういった課題に対する声掛け等、引き続き協力をお願いしたい。

学校によっては、離島や地方であり予算が組めずに外部講師を呼べないでいるというところもある。がん教育「いのちの授業」の授業実施校を増やすとなると、予算化も必要になってくると思う。

添付資料2

わたしの想い～受けたい医療・ケア～（鹿児島県医師会）

委員： 県医師会では、ACPを県民に広げようということで、「わたしの想い」というパンフレットを作成している。予期しない出来事や突然の病気など、もしもの時に、自分の希望を伝えられなくなった時のことを考えるというものになっている。家族や親戚の集まり等で活用し、ACPについて考えてほしい。

パンフレットを活用した授業を行っている学校もあり、いろいろな授業などでこういったものを活用してほしい。